

成功の秘訣 —ユーザー様の実体験でお伝えします—

## 株式会社三社電機製作所様

PLMシステムの導入により  
設計を取り巻く業務の大幅な効率化と  
利益体質への転換を実現。

半導体とその応用製品としての各種産業用電源装置の製造、販売を行っている株式会社三社電機製作所。同社は、設計業務の効率向上と、製造業務への柔軟な対応を実現するため、新たなPLM(製品ライフサイクル管理)システムを導入しました。

日立ソリューションズグループ(日立ソリューションズ、日立ソリューションズ西日本)でHi-PerBT Advanced BOM/PLANを導入した事例のご紹介です。

## 従来からの課題

定型業務の効率化や他システムとの連携により、設計業務に注力し、技術力の向上を

「今回のシステムは、設計部門だけでなく、本社の開発、営業、情報システム部門、岡山の半導体製造拠点がかわる、全社システムの刷新プロジェクトとしてスタートしました」と設計部部長の檀上氏は当時を振り返ります。

2009年7月に導入したりニューアル前のシステムは、設計・開発に関わるすべての情報を一元管理するPDM(製品情報管理)システムとして、受注情報や、在庫、原価といった基幹システム、購買システムなどとの連携により、工程全体を効率的に管理し、原価低減を図りたいという課題がありました。

「当時のシステムは、ユーザビリティ上の課題、例えば、操作面での使い勝手が十分に練られておらず、結果的に利用者負担をかけていました」(岡田氏)

そのような中、「業務改善プロジェクト」の立ち上げを実施。業務の中で見直すポイントは何かを検討することで、既存のシステムが抱えている課題が明らかになり、社内ではシステム刷新の気運が高まっていきました。

「定型業務の効率化により、本来の設計業務に注力し、技術力の向上に繋げていくために、既存システムのバージョンアップよりも、新システムへの置き換えが必要だという論議が進んでいきました」(田坂氏)

## 導入の経緯

パッケージの柔軟なカスタマイズ性や、「顧客企業の業務を熟知した」SEの対応力が決め手

「業務改善プロジェクト」は、2012年5月頃よりスタート。7月には日立ソリューションズがコンサルに入り、システム面からの業務改革が始まりました。

「日立ソリューションズには、それまでも何度かシステムの提案をいただき、業務側に歩み寄って課題を整理してくれた点に好感を持っていたので、次のシステムリニューアルの「要件定義フェーズ」でも引き続きコンサルをお願いすることにしました。我々の業務をよく分かった上で、要求仕様を取りまとめてくれると思ったからです」(岡田氏)

2013年4月、「要件定義フェーズ」の作成がスタートしました。

「新システムに求める要件は、仕様段階での情報、設計、製造後の不具合情報など、製品のライフサイクル全体を管理するPLMシステムの機能です」と、プロジェクトの中心メンバーである設計部 設計業務課 係長の田坂氏は語ります。

「旧システムでは、基幹システムとの連携が十分でなく、例えば、日々変わる部品の在庫情報は、そのつど基幹システムで確認し、在庫がなければPDMに戻って社内の代替品を使って作るか、社外から部品を調達するかを検討します。新システムでは、こうした作業を一つのシステムで、ワンストップで行いたいと考えました」(岡田氏)

こうして取りまとめた仕様に基づき、10月からシステム会社の選定を開始。選定では、第1次選定で8社から4社に絞り、第2次選定では利用部門も入り、利用部門の視点で使い勝手を評価しました。そこで4社から2社に絞り、最終選定となりました。

「最終の2社の提案を関係部門が検討し、実現性の可否や金額等を総合的に判断した結果、システム構築も日立ソリューションズをお願いすることに決定しました」(檀上氏)

「機能面では大きな違いはありませんでしたが、日立ソリューションズを選んだ一番の決め手は、標準機能ではまかないきれない機能のカスタマイズを、私たちの要望を具現化し、柔軟に対応していただけたと感じた点です。また、今後さらに機能を追加していける拡張性があると判断したからです」(岡田氏)

「日立ソリューションズなら、我々の業務を熟知しているので、使い勝手のよいシステムになるだろうという期待感がありました。一緒にシステムを作っていく信頼感を構築できたこともポイントとなりました」(檀上氏)



## 導入時の取り組み

業務との兼務で限られたスケジュールの中、社内各部門の要求の取りまとめや調整に注力

システム開発プロジェクトは、3か月の設計フェーズ(2014年3~5月)、その後の約8か月の開発フェーズ(6月~2015年1月)、3か月のテスト期間(2月~4月)という3つのフェーズで進んでいきました。「プロジェクトチームの体制は、我々設計部門が事務局を務め、開発や営業、スタッフ部門などからプロジェクトメンバーを選出してもらい、社内横断チームを結成しました。「受け入れの段階では、当初の要求仕様と、実際にできあがってきたシステムとの間で“認識のズレ”などもあり、その調整を行いました。これは、こちらの仕様の提示が不十分だったことや、以前のシステムの仕様が違っていたことなどが要因だったのですが、そんなときにも、日立側には快く改修を引き受けてもらい、無理を聞いていただいたと感謝しています」(吉原氏)

「評価フェーズでは、例えば、“ボタンの配置が見にくい”などの要望に対して、どの配置が一番効果的かなど、利用者の意見を聞き、日立側と調整しながら改修を進めました。併せて、テスト前にキーマン教育としてプロジェクトメンバーと、テスト操作してもらった人を対象とした利用者への教育も実施しました。利用者への教育は、導入前にも全拠点で300人規模で実施するなど、力を入れた部分です」(田坂氏)



## 導入の効果

設計業務の効率化だけでなく、原価管理の精度向上にも寄与

「2015年5月の新システム本稼働から間もないので、具体的な数値を示すのは難しいのですが、他のシステムとの連携を強化した部分が設計業務の効率化に寄与しています。基幹システムの情報がPLMシステム側から呼び出せるようになり、直接情報が呼び出せないシステムへのリンクも強化したため、全体の操作性は向上しました」(田坂氏)

「ビジネス面で期待されるメリットとしては、業務改善プロジェクトが取り組む原価管理の改善にも、PLMシステムの情報が役立つ点です。製品のライフサイクル全体がシステムで管理され、情報が蓄積されることで、原価管理の精度が高まり、製品に対する適正な数値が可視化されるようになります。また、以前は業務の流れや運用ルール自体に問題があっても、それに気づかずに操作を続けていたことがありましたが、今回、業務の流れから見直したことで、これまで見逃していたエラーや問題が可視化されたことも、導入効果の一つだと考えます」(岡田氏)



## 今後の展望

今後も“痒いところに手が届く”対応で、他部署での改革にも協力を期待

「全社的な業務改善プロジェクトの中で、このPLMシステム導入は設計主導で進んだプロジェクトでした。まずはシステムの安定運用を軌道に乗せ、今後の他部署での改革にも、日立ソリューションズのさらなる協力を期待します」(檀上氏)

「システムの保守、運用についても、提案型というか“攻め”のサポートを期待します。これまでの開発プロジェクトでの対応には満足していますし、我々の業務を熟知している日立ソリューションズだからこそ、“痒いところに手が届く”対応が可能だと思うからです。今後も情報共有を続けながら密接な関係を保ち、システムを成長させていきたいです」(岡田氏)

## User's Data

	株式会社三社電機製作所 設計部 部長 檀上 謙三 氏		設計部 設計業務課 課長 岡田 克己 氏		設計部 設計業務課 係長 田坂 和之 氏		管理本部 情報システム部 情報システム課 吉原 康之 氏
導入したパッケージ	Hi-Per <sup>®</sup> BT Advanced BOM/PLAN		事業内容	半導体および各種産業用電源機器の製造ならびに販売等			
Company Profile	会社名:株式会社三社電機製作所 創業:1933年(昭和8)3月 本社:大阪市東淀川区西淡路3丁目1番56号 資本金:27億7,427万7,500円 従業員数:1,451名(2017年3月31現在、連結) URL:http://www.sansha.co.jp						

※本リーフレット中の会社名、商品名は各社の商標及び登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク®マークは表記していません。※製品の仕様は改良の為予告なく変更する場合があります。※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせ下さい。※記載内容は2015年10月現在のものです。

## 商品・サービスに関するお問い合わせ

### 営業統括本部

【WEBによる受付】

<https://www.hitachi-solutions-west.co.jp/inquiry/>

※ご相談ご依頼いただいた内容は、回答等のため日立グループ各社に情報を提供し対応させていただきます。取り扱いは充分注意し、お客様の許可なく他の目的に使用する事はありません。

◎ 株式会社 日立ソリューションズ西日本

<https://www.hitachi-solutions-west.co.jp/>